

九州大学水産学標本室および農学部3号館より発見された江崎悌三博士による南洋諸島の魚類コレクション

日比野, 友亮
九州大学大学院農学研究院水産増殖学研究室

望岡, 典隆
九州大学大学院農学研究院水産増殖学研究室

<https://doi.org/10.15017/2558884>

出版情報 : 九州大学総合研究博物館研究報告. 15/16, pp.1-15, 2018-03. The Kyushu University Museum

バージョン :

権利関係 :

九州大学水産学標本室および農学部3号館より発見された 江崎悌三博士による南洋諸島の魚類コレクション

日比野友亮・望岡 典隆

九州大学大学院農学研究院水産増殖学研究室：〒812-8581 福岡市東区箱崎6-10-1

要旨：南洋諸島で採集されたガラス標本瓶62点119個体の魚類標本が、九州大学箱崎キャンパスの水産学標本室と農学部3号館から発見された。このコレクションは、Natural History Museum of Stanfordの動物部門のキュレーターである Albert William Christian Theodore Herre 博士の求めに応じて江崎悌三博士によって1937年から1938年にかけて収集されたもので、そのほとんどが Herre (1939) によって報告された標本の一部であった。一連のコレクションからは32種57種が確認され、13種が再同定された。

キーワード：博物標本、九州帝国大学、江崎悌三、Stanford University、Albert Herre

はじめに

九州大学農学部水産学第二講座（現大学院農学研究院水産増殖学研究室）では初代教官内田恵太郎博士以来の国内外の多数の魚類標本が収集、保管されている（九州大学総合研究資料館設置準備委員会，1985；望岡，2011）。なかでも戦前から戦後にかけて内田が朝鮮半島、中国、そして九州を中心とする日本各地から収集した魚類生活史研究の標本、いわゆる内田コレクションは歴史的価値が高いことはもちろん、その多くが実際の研究に用いられており（内田ほか，1958；内田，1964）、我が国における魚類生活史研究の黎明期の熱意を垣間見ることのできる学術的価値の高い標本群である。内田コレクションは九州大学総合研究博物館海洋生物標本データベースに登録され（現在は非公開）、そのすべてが適切な保存処置を施され、九州大学総合研究博物館（旧工学部本館）に保管されている（望岡，2011）。

九州大学箱崎キャンパスの移転事業に伴う標本整理の過程で、戦前にミクロネシア連邦とパラオ（いわゆる南洋諸島の一部）で採集された魚類標本が多数確認され、そのほとんどが農学部動物学第二講座（現昆虫学研究室）の教官江崎悌三博士によって採集されたものであった

（Fig. 1）。本稿ではこれらの標本の再同定を行うとともに、所蔵の経緯について論じた。標本の再同定にあたっては Carpenter (1988)、Myers (1999) および中坊 (2013) を参照した。発見された標本はすべて九州大学総合研究博物館魚類標本 (KYUM-PI) として登録した。



Fig. 1. Dr. Teiso Esaki (provided by T. Hirowatari and T. Mita).

標本の発見状況

戦前に南洋諸島で採集された一連の魚類標本（江崎コレクション）は2017年5月に相次いで発見された（Fig. 2）。発見された標本は瓶数にして62点、個体数にして119点で、そのほとんどが水産学標本室前室奥の木棚に無造



Fig. 2. Esaki's collection bottles in the Specimen Building of Fisheries when we found (arrows).

作に並べられていた。わずかに各1点が同標本室後室の棚（オオウナギ *Anguilla marmorata*）と、農学部3号館6階の学生実験室の教壇下の戸棚（クモウツボ *Echidna nebulosa*）から発見された。

水産学標本室の標本は2005年の福岡県西方沖地震（玄海地震）の甚大な被害を受けており、多数の標本瓶が落下、破損していたが、発見された標本瓶の大半は全く割れていないか、またはごく一部の破損がみられる程度であった。62点の標本瓶のうち、19点は完全に瓶内部の液が蒸発しており、一部に虫食いが発生しているものもあ

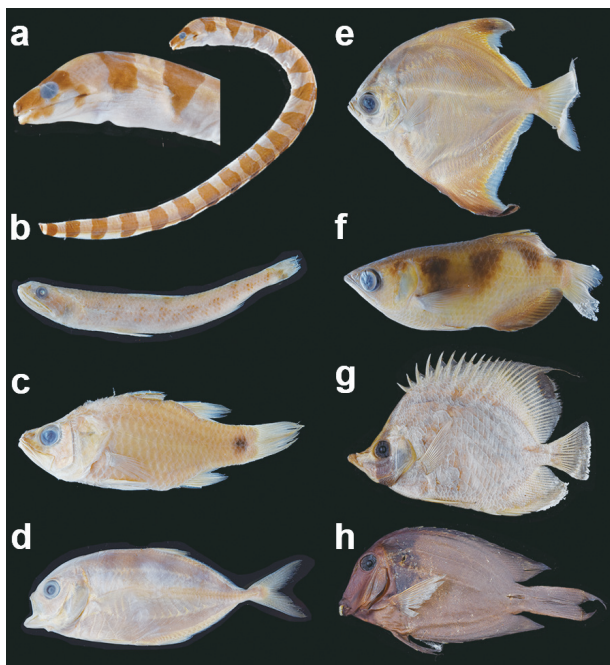


Fig. 3. Part of Esaki's collection. (a) *Gymnothorax ruppellinae*, KYUM-PI 4930; (b) *Saurida nebulosa*, KYUM-PI 4947; (c) *Yarıca hyalosoma*, KYUM-PI 4927; (d) *Caranx papuensis*, KYUM-PI 4924; (e) *Monodactylus argenteus*, KYUM-PI 4940; (f) *Toxotes jaculatrix*, KYUM-PI 4897; (g) *Chaetodon auriga*, KYUM-PI 4906; (h) *Ctenochaetus striatus*, KYUM-PI 4902.

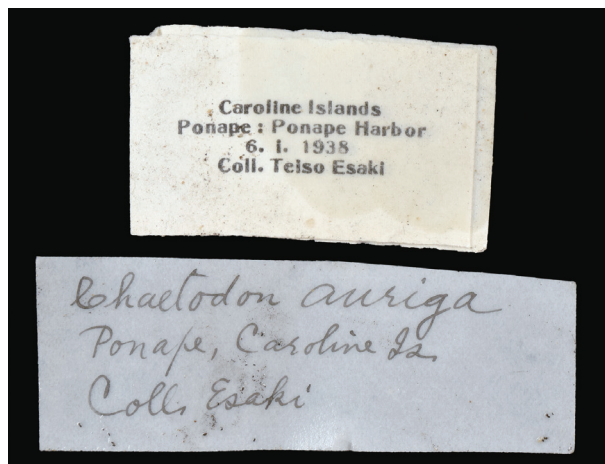


Fig. 4. Typing specimen label (upper) and handwriting label with identification (lower).

たが、多くは保存液の多寡はともかくとして、辛くも液浸の状態を保っていた。発見された標本の一部にはヤスで突いた跡があるが、標本の固定状態は腐敗の痕跡がみられず極めて良好であり、採集地での適切な標本作製作業が行われたと推測されるものであった (Fig. 3)。

標本瓶には基本的に2種類の紙ラベルが同封されていた。一方はタイピングによって印字された詳細なロカリティ情報（採集地、採集日および採集者）であり、他方は種名と最低限の採集地（例えば Ponape のみ）、稀に採集者や採集日などの書かれた手書きのものであった (Fig. 4)。瓶の中に複数個体の標本が含まれる場合には、タイピングのラベルも複数枚、通常標本の個体数に応じて同封されていた。標本瓶の外側には朱色の縁取りのあるシールが貼られており、1ないし2桁の数字が視認できた（ただし、相当数が脱落していた）。

標本の再同定

標本の再同定を行った結果、32科57種が確認された。標本瓶に同封されていた種名の手書きラベルは非常に同定精度が高いもので、現在は他の有効種の新参シノニムとされるものを除くと、同定結果が完全に誤りであったものはわずかに13種であった（巻末の checklist を参照）。

標本収集の経緯

ここで、標本収集の経緯を論じておきたい。当時九州帝国大学助教授であった江崎悌三博士は、昆虫学分野の専門家として1936年から1939年にかけて南洋庁の委嘱により南洋諸島（現在の北マリアナ諸島、パラオ、マーシャル諸島、ミクロネシア連邦に相当する地域）各地を訪問した（江崎，1984；長谷川，1984）。江崎は膨大な昆虫標本のコレクションを残しているが、なかでも27000点に及ぶミクロネシア産昆虫標本は他に類を見ないもので、国内外の研究者に多数利用されている（九州大学総合研究博物館，2005）。江崎は昆虫学を専門としながら、生物学全般に関しての興味が旺盛であった。南洋諸島の探検に際しても、昆虫以外にもさまざまな生物、たとえば菌類や藻類の標本資料を持ち帰り、各分野の専門家へ提供している（山口，1939；今關，1941）。江崎の南洋探検資料に基づいて行われた研究成果には、必ず Results of Professor Teiso Esaki's Micronesia Expedition 1936, No. 14. あるいは江崎教授1936－1939年ミクロネシア探検報告、No.51といった形でその成果物である旨が明記された（長谷川，1984）。九州大学農学部昆虫学教室で保管されているミクロネシア探検報告の抜き刷り集には、これらの研究論文が網羅的に含まれており（全81件）、その中に1件の魚類に関する論文 [Herre (1939) On a collection of fishes from Nanyo, the Japanese mandated islands] が確認された。

抜き刷り集との対応関係の確認と合わせて、標本瓶内の手書きラベルに残された文言を元に検討した結果、今回発見された標本群は、Herre (1939) によって報告された魚類標本の片割れであることが判明した。手書きラベルのうちの1枚には、「for Stanford」との1文がかき添えられていた。Stanfordとは江崎が標本蒐集を行った当時、Albert William Christian Theodore Herre 博士が在任していた Stanford University のことである。Herre はアメリカ合

衆国の植物学者・魚類学者で、Philippine Bureau of Science の魚類担当を1920年から1928年まで務め、その後1928年から1946年まで Stanford University の Natural History Museum of Stanford の動物部門のキュレーターとして、主に魚類分野で活躍した。Herre は魚類に関する多数の著作を残しているが、この中にパラオの魚類を扱ったものが数報確認され、Herre (1939) のみに江崎に関する記述が確認された。Herre (1939) では序章の中で標本収集の経緯について詳述され、Herre 自身が数年前にパラオでの魚類採集中に江崎と会ったこと、江崎が1937年10月から1938年3月にかけて、昆虫採集の傍ら魚類採集を行ったこと、江崎が Herre の元へ一連の魚類標本を丁寧に送ったことが記述されている。江崎の南洋諸島滞在は1936年2月から3月、1937年10月から1938年3月、1939年6月から9月の計3回である（江崎，1984）。このことから、江崎は第1回ないし第2回の南洋調査時に Herre と会い、魚類標本収集の要請を受けたものと推測される。

今回発見された標本群は江崎自身の採集による1937年から1938年にかけてのものについて、その体長と種名ラベルからほぼすべてが Herre (1939) で報告された標本であると判断された。Herre はフィリピン赴任時代からいくつもの魚類相あるいは魚類分類に関する研究論文を出版していることから、手書きの標本ラベルに記された高い種同定の精度にも首肯できる。実際に、このラベルは Herre 自身によって書かれたものであることが判明した (David Catania 氏，私信)。Herre (1939) で用いられた標本のうち、47ロット80個体については Natural History Museum of Stanford の標本として登録され、その後 California Academy of Sciences (機関略号 CAS-SU) に移管されている。Herre (1939) と実際の2機関に所蔵されている標本を照合した結果、少なくとも41種71個体 [ハゼ科標本の発見 (後述) により38種67個体となった] の標本が行方不明であることが判明した (Table 1)。特にベラ科とハゼ科についてはほとんどの標本が行方不明であ

Table 1. List of Esaki's collection reported by Herre (1939), Kyushu University (KYUM) and California Academy of Sciences (CAS-SU).

Scientific name in Herre (1939)	Number of specimens			
	Herre (1939)	KYUM	CAS-SU	Unknown
<i>Spratelloides delicatulus</i>	10	-	3	7
<i>Anguilla mauritiana</i>	2	-	1	1
<i>Anguilla mauritiana</i>	2	1	1	0
<i>Muraenichthys macropterus</i>	1	1	-	0

<i>Ophichthus cephalozona</i>	1	1	-	0
<i>Echidna nebulosa</i>	1	1	-	0
<i>Gymnothorax boschi</i>	1	1	-	0
<i>Gymnothorax petelli</i>	1	1	-	0
<i>Gymnothorax undulatus</i>	2	1	1	0
<i>Plotosus anguillaris</i>	6	4	2	0
<i>Saurida gracilis</i>	2	2	-	0
<i>Tylosurus giganteus</i>	1	-	-	1
<i>Hemiramphus dussumieri</i>	3	-	1	2
<i>Zenarchopterus brevirostris</i>	12	3	4	5
<i>Myripristis adustus</i>	1	-	-	1
<i>Holocentrus sammara</i>	1	1	-	0
<i>Aulostomus valentini</i>	1	-	-	1
<i>Atherina forskali</i>	7	-	2	5
<i>Liza macrolepis</i>	2	-	-	2
<i>Mugil engeli</i>	2	1	1	0
<i>Sphyræna barracuda</i>	2	1	1	0
<i>Caranx ignobilis</i>	6	4	2	0
<i>Caranx sexfasciatus</i>	1	1	-	0
<i>Caranx sexfasciatus</i>	5	4	2	0
<i>Leiognathus equulus</i>	1	1	-	0
<i>Leiognathus fasciatus</i>	5	3	2	0
<i>Gerres abbreviatus</i>	5	-	2	3
<i>Apogon hyalosoma</i>	2	1	1	0
<i>Apogon lateralis</i>	9	5	4	0
<i>Apogon lateralis</i>	1	1	-	0
<i>Apogon orbicularis</i>	1	1	-	0
<i>Apogonichthys auritus</i>	1	-	-	1
<i>Kuhlia rupestris</i>	2	-	1	1
<i>Kuhlia rupestris</i>	2	1	1	0
<i>Cephalopholis urodelus</i>	1	-	-	1
<i>Epinephelus merra</i>	2	1	1	0
<i>Plesiops nigricans</i>	4	3	1	0
<i>Lutianus russelli</i>	1	1	-	0
<i>Lutianus vaigiensis</i>	3	2	1	0
<i>Lutianus vaigiensis</i>	1	-	-	1
<i>Caesio caeruleaureus</i>	14	5	6	3
<i>Caesio pisang</i>	8	5	3	0
<i>Scolopsis cancellatus</i>	3	2	1	0
<i>Scolopsis ciliatus</i>	8	5	3	0
<i>Lethrinus harak</i>	1	1	-	0
<i>Lethrinus harak</i>	1	-	1	0
<i>Pentapus caninus</i>	5	4	1	0
<i>Kyphosus cinerascens</i>	2	1	1	0
<i>Mulloidichthys samoensis</i>	9	6	3	0
<i>Parupeneus barberinus</i>	2	-	-	2
<i>Parupeneus trifasciatus</i>	2	1	-	1
<i>Monodactylus argenteus</i>	2	1	1	0
<i>Monodactylus argenteus</i>	1	1	-	0
<i>Toxotes jaculator</i>	5	3	2	0
<i>Chaetodon auriga</i>	3	2	1	0
<i>Chaetodon ephippium</i>	1	-	1	0
<i>Chaetodon trifasciatus</i>	2	1	1	0
<i>Zanclus cornutus</i>	2	1	1	0
<i>Acanthurus triostegus</i>	2	1	1	0
<i>Ctenochaetus strigosus</i>	1	1	-	0
<i>Zebrasoma flavescens</i>	1	1	-	0
<i>Lo vulpinus</i>	1	-	-	1
<i>Teuthis concatenata</i>	5	3	2	0
<i>Teuthis fuscescens</i>	3	2	1	0
<i>Teuthis javus</i>	1	1	-	0

<i>Chromis ternatensis</i>	17	11	6	0
<i>Pomacentrus amboinensis</i>	3	2	1	0
<i>Pomacentrus tripunctatus</i>	2	1	1	0
<i>Abudefduf cyaneus</i>	2	-	-	2
<i>Abudefduf glaucus</i>	1	1	-	0
<i>Abudefduf sordidus</i>	1	1	-	0
<i>Abudefduf septemfasciatus</i>	1	-	-	1
<i>Abudefduf septemfasciatus</i>	1	-	-	1
<i>Choerodon anchorago</i>	4	3	1	0
<i>Halichoeres margaritaceus</i>	1	-	-	1
<i>Labriodes xanthurus</i>	1	-	-	1
<i>Stethojulis axillaris</i>	2	-	-	2
<i>Stethojulis phkadopleura</i>	1	-	-	1
<i>Stethojulis strigiventer</i>	6	-	2	4
<i>Scarus erythron</i>	1	-	-	1
<i>Scarus harid</i>	3	3	-	0
<i>Bunaka pinguis</i>	1	1	-	0
<i>Eviota viridis</i>	2	-	-	2
<i>Valenciennea muralis</i>	1	1	-	0
<i>Amblygobius esakiae</i>	2	-	1	1
<i>Amblygobius perpusillus buanensis</i>	2	-	1	1
<i>Chonophorus genivittatus</i>	2	-	1	1
<i>Ctenogobius caninus</i>	1	1	-	0
<i>Gnatholepis punctangoides</i>	2	1	-	1
<i>Glossogobius biocellatus</i>	1	-	-	1
<i>Periophthalmus barbarus</i>	2	-	-	2
<i>Vaimosa horiae</i>	1	-	-	1
<i>Tripterygion minutum</i>	1	-	-	1
<i>Balistes chrysopterus</i>	1	1	-	0
<i>Tetraodon hispidus</i>	2	-	-	2
<i>Tetraodon immaculatus</i>	2	-	1	1

る。行方不明の標本については他の研究機関の研究者に貸与あるいは譲渡されているか、あるいは水産学標本室への移動の際に失われたものと推測される。

九州大学と Stanford University の標本の内訳を見ると、基本的に1個体しか採集されていない種の標本はすべて前者に所蔵され、複数個体が得られているもののみが後者に所蔵されていることが興味深い。江崎は1935年から1936年に行われた、Bernice Pauahi Bishop Museum の出資によって行なわれた Micronesia Expedition の採集物が、その調査の大半が日本人によって行われながら、ほとんどハワイに発送されたまま返送されていないことを嘆いている(江崎, 1984)。江崎はこの前例を踏まえて、Herre に対し標本の返送を細かな注文を付けて依頼したのかもしれない。なお、魚類学分野では異例とも思える上記のような採集物の分譲は、昆虫学分野では現在でも普通に行われている(丸山氏, 私信)。

九州大学における標本の所蔵

九州大学では1941年に水産学科が新設されるまで水産学を扱う講座はなく、魚類を専門とする教官は皆無であった。1941年12月には太平洋戦争が開戦したことを踏まえると、一連の魚類標本はそれ以前に返却されたと考えるのが妥当である。すなわち、江崎が Herre に標本の返却を要求した時点では九州大学には水産学科はなかったと思われる。それまでの江崎の経歴や、彼自身の随筆から、彼が博物学的視点から九州大学の自然史コレクションを充実させることを重視していたことは想像に難くないが、一連のコレクションがこれまで破棄されることなく所蔵されてきたことには驚きを禁じ得ない。

江崎コレクションの水産学標本室への受け入れの経緯については全く不明であり、その存在については近年の水産増殖学研究室では認識されてこなかった(本田, 松井, 中園, 多部田氏, 私信)。このことから、江崎コレクションは相当古い段階、すなわち、内田が退官する以前に受け入れられたものと推察される。内田は江崎や、動

物学第一講座の三宅貞祥博士と懇意で、水産学第二教室の設置当初には農学部旧2号館の動物学教室に間借りし第一講座の教官と同居していた（九州大学農学部創立50周年記念会，1971）。内田は赴任初期に江崎からコレクションの存在を知らされており、内田が江崎から直接譲り受けたものと考えるのが妥当であろう。このことは、先述した江崎コレクションの標本瓶外側に貼られた朱色の縁取りのあるナンバーラベルが、江崎コレクションをのぞく内田の国内外標本のそれにも貼られていることから支持できる。

水産学標本室は1959年に水産学第二講座の塚原博博士の尽力によって設置されたもので、それまで貝塚門にほど近い位置にあった水産学科校舎で保管されていた魚類標本が収蔵されたのち、塚原や道津喜衛博士、多部田修博士らによって収集された標本が次々に収蔵された。設置当初から塚原の退官前後までに蓄積された標本群は、ほとんど手付かずのまま現在まで保管されてきた。

我が国における戦前から戦後にかけて採集された魚類標本は、戦時下の空襲によって焼失、あるいは大学キャンパスの移転や建て替えに伴って廃棄されてきた。今回の標本群は、九州大学が戦時の大規模な空襲被害を免れたことに加えて、水産学科創立以来70余年の長きにわたり箱崎キャンパスを利用してきたこと、水産学標本室を別棟で建設し、建て替えを行わなかったこと、内田とその弟子たちによって、標本を残す重要性が黎明期から認識されていたことがこれまで現存し得た要因であると考えられる。魚類学分野においては、これまでに存在が知られていた内田コレクションとともに、江崎コレクションについても九州大学の誇るべき歴史的資産とみなすべきであろう。

追記：生物学研究所からの標本発見

九州大学における江崎コレクションの発見の顛末をまとめた本稿投稿後に、新たに行方不明であったハゼ亜目標本4点が皇居内の生物学研究所で保管されていることが宮内庁侍従職の藍澤正宏氏からの情報提供によって判明した。生物学研究所にはハゼ亜目の系統分類学的研究を行った高木和徳博士のコレクションが移管されている（藍澤氏，私信）。本4標本はこのコレクションの中に含

まれていた。高木は九州大学でハゼ科魚類の生活史研究を行っていた道津喜衛博士から多数のハゼ科魚類の寄贈、貸与を受けており、本4標本についても他の標本と同様、内田から道津に与えられたのちに、高木に寄贈あるいは貸与されたものと考えられる。なおこれらの標本については、すでに九州大学に返送されたため、九州大学総合研究博物館魚類標本として登録を行った。この点を踏まえて checklist および Table 1 については適宜修正を行った。

謝辞

本稿を執筆するにあたり、九州大学総合研究博物館の丸山宗利氏と九州大学農学部昆虫学研究室の三田敏治氏には貴重な文献の数々を閲覧させていただくとともに、昆虫標本に関する情報提供をいただいた。元九州大学の本田輝雄氏、松井誠一氏、中園明信氏ならびに多部田修氏には九州大学所蔵の魚類標本に関する貴重な情報をご教示いただき、鹿児島大学総合研究博物館の吉田朋弘氏および鹿児島水圏生物博物館の岩坪洗樹氏には標本の同定にご協力いただいた。カリフォルニア科学アカデミーの David Catania 氏には Albert William Christian Theodore Herre 氏の筆跡について資料とともにご鑑定、ご教示をいただいた。宮内庁侍従職の藍澤正宏氏には生物学研究所の標本についての情報を提供いただくとともに、標本返送にご尽力いただいた。九州大学農学部昆虫学研究室の広渡俊哉氏には江崎梯三氏の肖像写真の利用をご快諾いただいた。九州大学総合研究博物館の三島美佐子氏には原稿執筆を勧めていただいた。この場をお借りして深く御礼申し上げる。

参考文献

- Carpenter, K. 1988. FAO SPECIES CATALOGUE. Vol.8. Fusilier fishes of the world. An annotated and illustrated catalogue of Caesionid species known to date. FAO, Rome. 75 pp., 5 pls.
- 江崎梯三. 1984. 南洋群島の動物学探検小史, pp. 71–110. 上野益三・長谷川仁・小西正泰（編）江崎梯三著作集, 第一巻. 思索社, 東京.
- 長谷川仁. 1984. 解題, pp. 329–346. 上野益三・長谷川仁・小西正泰（編）江崎梯三著作集, 第一巻. 思索社, 東京.
- Herre, A. W. C. T. 1939. On a collection of fishes from Nanyo, the Japanese mandated islands. *Annot. Zool. Japon.*, 18 (4): 298–307.
- 今關六也. 1941. 南洋群島産高等菌類資料. *植物研究雑誌*, 17 (3): 175–184.
- 九州大学農学部創立50周年記念会（編）. 1971. 九州大学農学部五十年史. 九州大学農学部, 福岡. 272 pp.
- 九州大学総合研究博物館. 2005. 九州大学所蔵標本・資料 2005. 43 pp.
- 九州大学総合研究資料館設置準備委員会（編）. 1985. 九州大学

所蔵標本・資料. 九州大学, 福岡. 26 pp.
望岡典隆. 2011. 魚類生活史標本 — 内田コレクション — .
pp. 34–35. 九州大学百年の宝物刊行委員会 (編) 九州大学
百年の宝物. 丸善プラネット, 東京.
Myers, R. F. 1999. Micronesian reef fishes. A comprehensive guide to
the coral reef fishes of Micronesia. 3rd revised ed. Coral
Graphics, Guam. 330 pp., 192 pls.
中坊徹次 (編). 2013. 日本産魚類検索全種の同定. 第3版. 東
海大学出版会, 秦野. 2530 pp.

内田恵太郎. 1964. 稚魚を求めて ある研究自叙伝. 岩波書店,
東京.
内田恵太郎・今井貞彦・水戸敏・藤田矢郎・上野雅正・庄島洋
一・千田哲資・田福正治・道津喜衛. 1958. 日本産魚類の
稚魚期の研究. 第1集. 九州大学農学部水産学第二教室,
福岡. 89 pp., 86 pls.
山口久直. 1939. ミクロネシア産チリモ. 陸水学雑誌, 9 (2):
98–106.

Checklist of the Esaki's collection of KYUM

ウナギ科 Family Anguillidae

Anguilla marmorata

オオウナギ

KYUM-PI 4891, 350.0 mm total length (TL), Malem Stream, Kusaie, Caroline Islands, 6 Dec. 1937, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Anguilla mauritiana*, currently treated as a junior synonym of *A. marmorata*.

ウツボ科 Family Muraenidae

Echidna nebulosa

クモウツボ

KYUM-PI 4943, 368.0 mm TL, tide pool on reef flat, Malem, Kusaie, Caroline Islands, 21 Dec. 1937, coll. T. E.

Gymnothorax buroensis

サンゴウツボ

KYUM-PI 4905, 76.0 mm TL, tide pool on reef flat, Malem, Kusaie, Caroline Islands, 21 Dec. 1937, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Gymnothorax boschi*, currently treated a junior synonym of *E. nebulosa*.

Gymnothorax ruppellinae

クラカケウツボ (Fig. 3a)

KYUM-PI 4930, 170.6 mm TL, tide pool on reef flat, Malem, Kusaie, Caroline Islands, 21 Dec. 1937, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Gymnothorax petelli*, currently treated as a junior synonym of *G. ruppellinae*.

Uropterygius micropterus

アミキカイウツボ

KYUM-PI 4931, 163.4 mm TL, tide pool on reef flat, Malem, Kusaie, Caroline Islands, 21 Dec. 1937, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Gymnothorax undulatus*.

ウミヘビ科 Family Ophichthidae

Scolecenchelys macroptera

クリミミズアナゴ

KYUM-PI 4932, 210.0 mm TL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Muraenichthys macropterus*.

Ophichthus cephalozona

KYUM-PI 4904, 356.0 mm TL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

ゴンズイ科 Family Plotosidae

Plotosus lineatus

ミナミゴンズイ

KYUM-PI 4955, four specimens, 119.3–183.1 mm standard length (SL), tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Plotosus anguillaris*, currently treated as a junior synonym of *P. lineatus*.

エソ科 Family Synodontidae

Saurida nebulosa

ウチウミマダラエソ (Fig. 3b)

KYUM-PI 4947, 106.2 mm SL, KYUM-PI 4948, 77.4 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Saurida gracilis*.

イトウダイ科 Family Holocentridae

Neoniphon sammara

ウケグチイトウダイ

KYUM-PI 4911, 144.8 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Holocentris sammara*.

ボラ科 Family Mugilidae

Moolgarda engeli

モンナシボラ

KYUM-PI 4949, 140.4 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Mugil engeli*.

サヨリ科 Family Hemiramphidae

Zenarchopterus buffonis

KYUM-PI 4953, two specimens, 95.8–108.7 mm SL, Ponape, date unknown, coll. T. E.

Remarks: it was not included in Herre (1939).

Zenarchopterus gilli

KYUM-PI 4952, three specimens, 67.0–89.0 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Zenarchopterus brevirostris*, currently treated as a junior synonym of *Z. gilli*.

ハタ科 Family Serranidae

Epinephelus merra

カンモンハタ

KYUM-PI 4926, 144.7 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

メギス科 Family Pseudochromidae

Plesiops corallicola

ドンコタナバタウオ

KYUM-PI 4954, three specimens, 48.7–65.0 mm SL, Malem Stream, Kusaie, Caroline Islands, 16 Dec. 1937, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Plesiops nigricans*, known as an endemic species of the Red Sea. The Stanford specimen (CAS-SU 37345) was also reidentified as *P. corallicola* by Randall D. Mooi.

テンジクダイ科 Family Apogonidae

Fibramia amboinensis

アマミシモチ

KYUM-PI 4916, 42.1 mm SL, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Apogon lateralis* within the same bottle of KYUM-PI 4915.

Fibramia lateralis

ワキイシモチ

KYUM-PI 4915, four specimens, 52.0–64.1 mm SL, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.; KYUM-PI 4928, 54.5 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Sphaeramia orbicularis

ホソスジマンジュウイシモチ

KYUM-PI 4944, 60.6 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Apogon orbicularis*.

Yarica hyalosoma

カガミテンジクダイ (Fig. 3c)

KYUM-PI 4927, 113.0 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Apogon hyalosoma*.

アジ科 Family Carangidae

Caranx melampygus

カスマアジ

KYUM-PI 4907, four specimens, 66.8–87.8 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Caranx ignobilis*.

Caranx papuensis

オニヒラアジ (Fig. 3d)

KYUM-PI 4924, 62.1 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Caranx sexfasciatus* within the same bottle of KYUM-PI 4923.

Caranx sexfasciatus

ギンガメアジ

KYUM-PI 4922, 180.1 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.; KYUM-PI 4923, three specimens, 73.7–95.4 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

ヒイラギ科 Family Leiognathidae

Aurigequula fasciata

シマヒイラギ

KYUM-PI 4919, three specimens, 78.2–86.0 mm SL, KYUM-PI 4933, 43.0 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Leiognathus fasciatus*; KYUM-PI 4933 was formerly misidentified as *Leiognathus equulus*.

フェダイ科 Family Lutjanidae

Lutjanus fulvus

オキフェダイ

KYUM-PI 4896, two specimens, 73.4–115.1 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Lutjanus vaigiensis*, currently treated as a junior synonym of *L. fulvus*.

Lutjanus russelli

クロホシフェダイ

KYUM-PI 4929, 78.4 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

タカサゴ科 Family Caesionidae

Caesio caerulaurea

ササムロ

KYUM-PI 4888, 106.3 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Pterocaesio diagramma

タカサゴ

KYUM-PI 4889, 4890, four specimens, 62.7–82.4 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Caesio caerulaurea* within the same bottle of KYUM-PI 4888.

Pterocaesio pisang

KYUM-PI 4950, five specimens, 59.0–99.7 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

イトヨリダイ科 Family Nemipteridae

Pentapodus trivittatus

KYUM-PI 4914, four specimens, 42.7–70.5 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Pentapus caninus*.

Scolopsis affinis

ヒメタマガシラ

KYUM-PI 4892, two specimens, 128.3–142.8 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Scolopsis cancellatus*.

Scolopsis ciliatus

ハクセンタマガシラ

KYUM-PI 4951, five specimens, 60.0–84.6 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

フエフキダイ科 Family Lethrinidae

Lethrinus harak

マトフエフキ

KYUM-PI 4942, 153.0 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

ヒメジ科 Family Mullidae

Mulloidichthys flavolineatus

モンツキアカヒメジ

KYUM-PI 4917, six specimens, 66.3–11.7 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Mulloidichthys samoensis*, currently treated as a junior synonym of *M. flavolineatus*.

Parupeneus multifasciatus

オジサン

KYUM-PI 4918, 102.7 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Parupeneus trifasciatus*, currently treated as a junior synonym of *P. multifasciatus*.

ヒメツバメウオ科 Family Monodactylidae

Monodactylus argenteus

ヒメツバメウオ (Fig. 3e)

KYUM-PI 4920, 67.1 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.; KYUM-PI 4940, 96.8 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

テッポウウオ科 Family Toxotidae

Toxotes jaculatrix

テッポウウオ (Fig. 3f)

KYUM-PI 4897, three specimens, 71.6–131.6 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

チョウチョウウオ科 Family Chaetodontidae

Chaetodon auriga

トゲチョウチョウウオ (Fig. 3g)

KYUM-PI 4906, two specimens, 55.8–89.6 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Chaetodon ephippium

セグロチョウチョウウオ

KYUM-PI 4941, 113.4 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Chaetodon lunulatus

ミスジチョウチョウウオ

KYUM-PI 4913, 69.6 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Chaetodon trifasciatus*, currently treated as a junior synonym of *C. lunulatus*.

スズメダイ科 Family Pomacentridae

Abudefduf sordidus

シマスズメダイ

KYUM-PI 4938, 46.4 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Chromis ternatensis

カブラヤスズメダイ

KYUM-PI 4946, 11 specimens, 39.3–65.5 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Chrysiptera glauca

ネズズメダイ

KYUM-PI 4936, very poor specimen, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Abudefduf glaucus*, very poor condition.

Pomacentrus amboinensis

ニセネッタイスズメダイ

KYUM-PI 4945, two specimens, 59.4–72.7 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Pomacentrus taeniometopon

スミゾメスズメダイ

KYUM-PI 4935, 71.1 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Pomacentrus tripunctatus*.

ユゴイ科 Family Kuhliidae

Kuhlia rupestris

オオクチュゴイ

KYUM-PI 4882, 143.6 mm SL, Malem Stream, Kusaie, Caroline Islands, 16 Dec. 1937, coll. T. E.

イスズミ科 Family Kyphosidae

Kyphosus cinerascens

テンジクイサキ

KYUM-PI 4883, 137.8 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

ベラ科 Family Labridae

Choerodon anchorago

クサビベラ

KYUM-PI 4894, 152.2 mm SL, KYUM-PI 4937, two specimens, 58.2–84.3 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrer, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

ブダイ科 Family Scaridae

Hipposcarus longiceps

キツネブダイ

KYUM-PI 4939, three specimens, 56.2–70.5 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Scarus harid*, currently treated as a junior synonym of *H. longiceps*.

ハゼ科 Family Gobiidae

Acentrogobius caninus

ホクロハゼ

KYUM-PI 5287, 69.4 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: it was kept at the Biological Laboratory of the Imperial Household; formerly identified as *Ctenogobius caninus*, currently treated as *A. caninus*.

Acentrogobius multifasciatus

セイタカスジハゼ

KYUM-PI 4925, 30.1 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: it was not included in Herre (1939) because it is an inner mouth content of KYUM-PI 4923.

Bunaka gyrinoides

オウギハゼ

KYUM-PI 5288, 148.6 mm SL, Malem Stream, Kusaie, Caroline Islands, 16 Dec. 1937, coll. T. E.

Remarks: it was kept at the Biological Laboratory of the Imperial Household; formerly identified as *Bunaka pinguis*, currently treated as a junior synonym of *B. gyrinoides*.

Exyrias puntang

インコハゼ

KYUM-PI 5289, 57.7 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: it was kept at the Biological Laboratory of the Imperial Household; formerly identified as *Gnatholepis punctangoides*, currently treated as a junior synonym of *E. puntang*.

Valenciennesa muralis

KYUM-PI 5290, 67.8 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: it was kept at the Biological Laboratory of the Imperial Household.

アイゴ科 Family Siganidae

Siganus argenteus

ハナアイゴ

KYUM-PI 4910, two specimens, 55.0–86.3 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Teuthis fuscescens*.

Siganus guttatus

ゴマアイゴ

KYUM-PI 4887, three specimens, 82.3–114.8 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Teuthis concatenata*, currently treated as a junior synonym of *S. guttatus*.

Siganus javus

KYUM-PI 4893, 127.2 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korrör, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

ツノダシ科 Family Zanclidae

Zanclus cornutus

ツノダシ

KYUM-PI 4912, 79.2 mm SL, Wotje Atoll, Marshall Islands, 24 Apr. 1937, coll. T. E.

ニザダイ科 Family Acanthuridae

Acanthurus triostegus

シマハギ

KYUM-PI 4898, 116.5 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Ctenochaetus striatus

サザナミハギ (Fig. 3h)

KYUM-PI 4902, 86.9 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly misidentified as *Ctenochaetus strigosus*.

Zebrasoma flavescens

キイロハギ

KYUM-PI 4903, 80.1 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

カマス科 Sphyraenidae

Sphyraena barracuda

オニカマス

KYUM-PI 4934, 233.6 mm SL, tide pool along mangrove swamp, Korror, Palau Islands, 2 Feb. 1938, coll. T. E.

モンガラカワハギ科 Balistidae

Sufflamen chrysopterum

ツマジロモンガラ

KYUM-PI 4909, 67.5 mm SL, Ponape Harbor, Ponape, Caroline Islands, 6 Jan. 1938, coll. T. E.

Remarks: formerly identified as *Balistes chrysopterus*.

Received October 10, 2017; accepted December 1, 2017

Fish Collection of Nanyo Islands Found from the Specimen Building of Fisheries and 3rd Building of Faculty of Agriculture, Kyushu University, Collected by Dr. Teiso Esaki

Yusuke HIBINO* and Noritaka MOCHIOKA

Laboratory of Fisheries Biology, Faculty of Agriculture, Kyushu University: 6-10-1 Hakozaki, Higashi-Ku, Fukuoka City, 812-8581, Japan

119 fish specimens within 62 bottles collected in Nanyo Islands (Palau and Caroline islands) were found from the Specimen Building of Fisheries and 3rd building of Faculty of Agriculture, Hakozaki Campus, Kyushu University. The collections were collected by Dr. Teiso Esaki from 1937 to 1938, according to request by Dr. Albert William Christian Theodore Herre which is a curator of animal in the Natural History Museum of Stanford. Most of these were a part of specimens reported by Herre (1939). 57 species of 32 families were confirmed from the series of collections found from Kyushu University, 13 species were reidentified.

Key words: Museum specimen, Kyushu Imperial University, Teiso Esaki, Stanford University, Albert Herre

*Corresponding author: yusukeelology@gmail.com